

## 理事長所信

2010年度理事長

國分 隆史

### 【はじめに】

私に100km徒歩の旅の担当副理事長の話が舞い込んだのは2008年の秋であった。この事業は真夏に小学生の参加者を集い、暮らしている地域を4泊5日かけて100km歩く事業である。事業立ち上げの苦労は覚悟していたつもりだったが、それは過酷を極めた。

事業終了後、子ども達の成長のみならず自分の成長も感じた。100kmに、青年会議所（以下JC）に鍛えてもらい育ててもらった、そう感じた。何か恩返ししなくてはならない、理事長に自分になることでJCに恩返し出来ればと考えた。また理事長としてJCをまとめ、地域に貢献し、その中で自分も更に成長させて頂ければこれ以上の事はないと考え、理事長を志した。

### 【本物の事業、本物のJC】

現在、日本は100年に1度という不況下にある。私たちが暮らすカシオペア地域もその例に洩れない。私が従事する建設業界も公共事業の減少などに伴い、全体的に業績の悪化が顕著であり、老舗と言われる大きな会社の倒産も珍しい事ではなくなった。

そんな不況のあおりを受けて、我がカシオペアJCを取り巻く環境もまた良いとは言えない。右肩下がりの会員数がそれを物語っている。また全国的にもJCの会員は減り続けピーク時には6万6千名余いた会員数は現在3万6千名余、757あった全国のJCも現在は709となっている。しかしこんな不況下でも業績を伸ばしている元気な会社も少なくない、また会員数が増え、発展しているJCも少なくない。まさにそのような会社、JCは本物であり、逆に本物でなければ生き残れない時代が来たと感じる。

本物のJCとはなんだろう。どうすれば本物のJCになれるのだろうか。私のJCでの恩師の言葉である、「JCICリードの中の【人類への奉仕が人生最善の仕事である】ここがとても大事である。本物のJCとは、JCICリードと共に運動を展開するJCである。」これは言い換えれば「本物のJCになりたければ、真に地域のためになる本物の事業をなささい。」という意味であろうと考える。私も全くその通りであると感じている。

それでは本物の事業とはなんだろうか。答えは簡単である、地域の人々のためになり、地域の人々に感謝してもらえ事業である。J C内部からの評価は目的とはならない。私の理事長としての責務は、本物の事業をどれだけのクオリティで出来るか、その一点であると考えている。

私はJ Cとは、とてつもない潜在能力、ポテンシャルがあると考えている。それは新たな事業を産み出し易い単年度制に起因している。これにより本物の事業を数年かけて育て、市民団体として切り離し、また新たな本物の事業を産み出し、また地域に根付かせていく、つまり次々と本物の事業を地域に産み出していく事が出来る。こんな事が出来るのはJ Cだけであると思う。過去においてもカシオペアJ Cは二戸祭り、二戸大作太鼓、カーリング、カシオペアFM等数々の事業を生み出し、地域に根付かせてきた。私も自分が信じた事業を必ず地域に根付かせ、一生背負う覚悟である。そしてきっと私の後輩達も、新たな本物の事業を地域に根付かせていってくれると信じている。

#### 【本物のJAYCEEを増やすために】

我々が地域に根ざし、発展していくためには新たなる仲間の参加が必要不可欠である。私は会員拡大に事業と同等の重きを置いている。

私がJ Cに入会したのは先に入会していた友人の誘いであった。その時は頼む、の一言に負けて入会したのである。周りの人にもJ Cの事がよく分からずに入会している方がいる。

確かに今まではそれでも良かったのだろう。しかし今後はこのような形での入会はどんどん難しくなるだろう。活動を理解していない団体に多額の会費を出せる企業は少なくなっている。そしてまた良く分からずに入会した会員の中にはJ C運動が全く理解できず、J C運動から離れていく会員もいる。

ではどうすれば良いのだろうか。私は会員候補が必ず思う、J Cとは何か。どんな事業を行っているのか。入って何のメリットがあるのか。というごく当たり前の疑問に、納得の行く回答が出来なければならないと考える。

これからは行なっている事を説明し、それに共感してもらわなければ入会は難しいのではないだろうか。もちろんそれには共感してもらえるような本物の事業が必要である。本物の事業を行なう事が私の責務であるというのは、会員拡大においても、その事が非常に大切になってくるからである。逆に本物の事業を行えば、自然と共鳴して入会してくれる同士もいるはずだ。メンバーの皆さん、本物の事業を行ない、さらには地域のためになる事業を企画、実施し、地域におろしていけるJ Cの醍醐味をPRし、本物の会員拡大に繋げて行こうではありませんか。

## 【時代の変化に対応する体制作り】

【この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ。】これはイギリスの著明な自然科学者、チャールズ・ダーウィンの言葉である。

携帯電話とインターネット、私の高校時代には影も形もなかったこれらの文明の利器により、我々の生活は180度変わってしまったかのような印象さえ受ける。カシオペアJCにおいても理事会での紙資料は電子資料へと変わり、連絡の主な方法は電話、ファックスから携帯電話、インターネットを利用したメールになった。しかしながら私は更なる社会の変化に対応する組織、体制づくりが必要であると考えている。私はJCの運営において事業を行いながらも、事務、総務の職務を取捨選択し、積極的に精査を行なっていきたい。

そして時代の変化といえ、JCの存在の根本に関わる、公益法人制度改革が2008年に本格的にスタートした。我々は2007年より公益法人格取得の準備を始め、総会決議をもって公益法人格の取得を決意した。また全国的にも数箇所のJCがすでに公益法人格の取得をしており、これから全国のJCで加速的に取得がなされていくのは間違いがない事と思われる。我々は最大限の情報収集をし、日本JCと連携をとり、公益法人格の取得に全力を尽くしたい。

## 【輝く岩手の創造のために】

今年度カシオペアJCは久慈浩介君を第40代岩手ブロック協議会の会長として輩出する。これはカシオペアJCでは第10代高杉昭一先輩、第28代中田勇司先輩に続き3人目となる。我々も出向者等で協力し、担当委員会を設置し、最大限のバックアップをして岩手ブロック協議会を盛り上げて行きたい。

またこのカシオペアから岩手を元気にし、盛り上げる事業を行なっていきたい。

そして今年度の岩手ブロックのスローガン「POSITIVE CHANGE 前のめりに歩むJAYCEEによる輝く岩手の創造」達成のために是非岩手ブロック協議会と手を携えて邁進して行きたい。

## 【40周年を終え、新たなる一步へ】

我々カシオペアJCは昨年度、節目の創立40周年を迎えた。40年の長きに渡って地域の為の地域に根ざした数々の事業を行われてきた諸先輩方に感謝の意を表すと共に最大限の敬意を表したい。

私は今年度、諸先輩方が行ってきた事業に恥じない本物の事業を行っていきたい。また

歴史を積み重ねるのが目的ではないが、我がカシオペア J C が未来永劫に渡って、地域の為の事業を展開していくことを切に願う。

## 【結びに】

苦勞は買ってでもしろという言葉がある。これは苦勞によって人は大きく人間的に成長できるのだから、苦勞できるチャンスがあれば買ってでもしなさいという意味である。しかし現実、苦勞を買えるチャンスというのはなかなかない。私は J C とはまさにこの苦勞を買える団体だと思っている。そして J C に入ってから個人的なメリットは苦勞、修練による人間的な成長にあると思っている。しかし残念ながらこれに気づかないメンバーは、何かビジネスになるのではないかと、という現実的なメリットを求め、それが叶わないとなれば J C から離れていく。

また人間というのは意味のない苦勞、修練には耐えられないものである。私が 100 km 徒歩の旅の事業立ち上げの修練に耐えられたのも「100 km 徒歩の旅は必ず地域に必要なだ、必ずやらなければならない。」という信念があったからだ。それが無い事業のためならここまで到底できなかったであろう。そして私は人間として大いに成長させて頂いたと感じている。

繰り返しになるが J C を修練の場と位置づけるならば、そこには J C の活動を行っていくうえでの精神的なバックボーンであり、根幹であり、アイデンティティ足りえる本物の事業が必要なのである。

本物の事業を行い、地域に貢献し、またその経験、苦勞の中で自らを鍛え、人間的に成長しそれを家庭、職場、そして地域にフィードバックしていく、それこそが本物の J A Y C E E であると私は信じている。仕事と、家庭を両立しながら、手弁当で J C 運動を行っているメンバーの皆さんには、是非 J A Y C E E である事に誇りを持って欲しい。J C メンバーとしてのプライドを持って欲しい。メンバーの皆さん、J C プライドと共に 1 年間がんばって行こう。

私はこの 1 年間、カシオペア青年会議所とこのカシオペア地域が一步でも良い方向に行けるように全身全霊を傾ける、「出切る・出切る・必ず出切る」真に地域に必要なとされる J C のために。